

第19話「一歩でも前に進む」

課題	話し合いに参加できない
ストラテジー	発言の許可を得る
効果	- 自分が発言できる場を作ることができる - 話し合いに参加したいという意思をはっきりと示すことができる

<課題>

話し合いに参加できない



スアンは祭りの企画会議に参加しました。会議のほかのメンバーは積極的に意見を言っていますが、スアンは意見を言うきっかけがつかめません。

<ストラテジー使用場面>



青年団A: 後輩ってことはただで呼べるの？

青年団B: ただではちょっと無理だと思うんですけど。

全 員: …。

スアン: すみません、ちょっといいですか。

田 所: どうぞ。

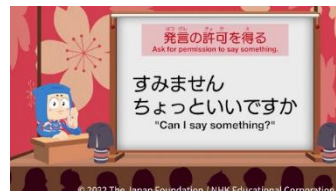
スアン: このお祭りは、何のお祭りなんですか？（中略）

田 所: まあ、一応町の人が仲良くなるためかな。（中略）

スアン: それなら、えっと…。私はカラオケ大会、楽しそうだなと思いました。一緒に歌をうたったりして、仲良くなれそうな気がします。

<スアンが使ったストラテジー>

発言の許可を得る



話し合いに参加するために、スアンはまず「すみません、ちょっといいですか。」と言って発言の許可を求めました。これに対して、話し合いの主導者である田所が、「どうぞ」と言って発言の許可を与えています。これで次の発言者がスアンであることが、まわりの参加者にもわかりました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、話し合いの場で発言権を得るためのストラテジーです。#15では話し合いに参加していない人に対して、「〇〇さんはどう思う？」と意見を聞いて話し合いに誘い入れるストラテジーを紹介しました。このストラテジーのように、話し合いに誘い入れてもらえれば発言もしやすいですが、いつもそのように誘い入れてもらえるわけではありません。また、対等な立場の人同士の話合いの場では、誘い入れてもらえることを待つのではなく、自分から積極的に話し合いに入っていく姿勢も大切です。

ここで紹介したストラテジーは、「すみません、ちょっといいですか。」という表現を使って、直接発言の許可を得る方法です。話し合いの流れにのることができているときは、いちいち発言の許可を得る必要はありませんが、話の流れにのれていない人が途中から参加するのはなかなか難しいものです。直接発言の許可を得て承認されれば、ほかの人たちも発言を止めてくれるので、発言しやすい場を作ることができます。また、この方法で発言権を得ることで、自分はこの話し合いに参加したいという態度をはっきりと示すことができます。

<どうやって使う？>

直接発言の許可を得る、というのは、話し合いの流れを意図的に止めて、自分が入り込む余地を作る行為なので、とても積極的な行為だと言えます。そのため、ストラテジーを使うタイミングには気を付ける必要があります。

ほかの人の発言の最中に使ってしまうと、その人の発言を遮ってしまうことになります。ほかの人たちの発言が止まったときに使うことが大切です。このとき、スアンのように手を挙げて、視覚的にも注目が集まるようにするといいでしょう。また、今回のようなやや改まった話し合いの場には、通常その場を取り仕切るファシリテーターのような役割を担っている人がいます。そうした人に視線を向けて言うときに効果的です。

なお、スアンは、「すみません、ちょっといいですか。」と言ったあとに質問をしていますが、このストラテジーは質問をすることに限ったものではありません。発言したいことがあるときにはいつでも使うことができます。「すみません、ちょっといいですか。」という表現がカジュアルすぎると感じる場合は、「すみません、発言してもよろしいでしょうか。」など丁寧な言い方をするといいでしょう。

<もう一歩> 発言するのは勇気がいる？

今回のスアンの行動を見て、勇気がある！と思った人もいるかもしれません。スアンが参加した祭りの会議のように、多くの人が参加する話し合いで発言するのはちょっと勇気がいることですね。特に、スアンのように初めて参加する場合、その人たちがどのような人たちなのか、これまでどのような話し合いが行われていたのかなどを知らないままで発言をするのはこわいと感じる人も少なくないでしょう。そんなときは、まずは周りの人の話し合いをよく聞くことから始めてみましょう。やんすが言っていたように、周りの人の話を聞くことも話し合いへの参加の方法の一つだと考えることができます。話を聞いていて、わからないな？と思うことが出てきたらチャンスです。意見を言うだけではなく、質問をしたりして話し合いへの参加の幅を広げていきましょう。